

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①学校の教育課程全体で問題解決能力を育み、持続可能な社会の担い手を育成する。 ②「総合的な探究の時間」の研究開発等をとおして、次代に求められる資質・能力・態度を育成する。	①問題解決能力育成の実現に向けた、組織的な授業改善と探究的な学びを実践する。 ②指定校事業の研究や実践を授業改善に活用し、「総合的な探究の時間」を中心に課題解決力を育成する。	①全ての科目で思考力・判断力・表現力の育成を図る授業を展開する。I C Tを適切な場面で活用する能力を身に付けさせ、効果的な探究の学びの充実を図る。 ②探究活動を取り入れた授業を実践するとともに、課題解決力を身に付けさせるために効果的な取組を研究し、情報共有を行う。	①生徒が主体的に授業に取り組み、I C Tの効果的な活用により情報の収集・分析・表現をすることができたか。 ②生徒自らが課題を発見し、解決する能力を身に付けられたか。					
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	①学習活動、学校行事、部活動等の活動を通して、自己肯定感と行動力の高い、自主自立した人材を育成する。 ②一人ひとりが豊かな人生を切り拓くために、それぞれの生き方や人としての在り方を学ぶ教育活動を推進する。	①よりいっそう活気に満ち溢れた学校行事を目指すなかで、学びや過程を大切にし、生徒の充実した学習機会を提供する。 ②・人としての「在り方」「生き方」を考えさせる指導を通して、自他を尊重し、人として備えるべき資質を身に付けさせる。 ・教育相談体制の充実を図り、実践を重ねる。	①生徒会本部や委員会の生徒が中心となり、生徒一人ひとりがよりいっそう輝ける行事の在り方を検討することで、主体的で協働的な学びの機会を確保する。 ②・引き続き遅刻指導等の日常的な指導を徹底し、道徳観や規範意識を高める。 ・今年度も人権研修等を通じ、自尊感情を育み、多様性を認める意識を醸成する。 ・面談、かながわ子どもサポートドックを通し、スピード感をもって、且つ組織的に生徒の困り感に対応する。	①生徒主体の生徒会行事を企画・運営することができたか。(アンケート) ②・遅刻指導対象者を減らすことができたか。 ・道徳観や規範意識を高めることができたか。(人権講話後アンケート) ・面談、かながわ子どもサポートドックを適切に実施し、組織的に対応できたか。					
3	進路指導・支援	①主体的に自分の将来像を描き出し、社会的役割を果たそうとする姿勢の確立を支援する。 ②一人ひとりの進路実現を支え切る指導と支援の体制構築と効果的な実践を図る。	①自分自身の職業観や勤労觀をもとに、卒業後のイメージを明確にさせるとともに、進路実現に向けた支援体制を構築する。 ②進路指導の観点から求められる学習指導の在り方とキャリア形成の観点から生き方を追求する。	①社会の一員として働くことの意義に気付かせ、カリキュラム・マネジメントの視点から、本校の育てたい人物像として求められる人間力を養うキャリア支援(説明会等)を策定する。 ②進路実現に向け、入試対応や学力の定着に向けて、各教科と連携し必要な学習内容を研究し、各教科での実践につなげ、模擬試験等の活用で、文理選択の決定や進路実現に向け自分自身の現状把握と課題確認により今後の取組を模索する。	① 本校の育てたい人物に求められる人間力を養うキャリア支援(説明会等)を策定することができたか。 ② 生徒の理解度や習熟度を課題、模擬試験等で把握し授業での実践および生徒個々への対応ができたか。					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<p>①地域資源を活用した教育活動を行い、社会の一員としての資質や意識の向上をめざして、多様な人たちとの係わりの中から生き方を学ぶ機会を拡充する。</p> <p>②ホームページ等による教育活動、教育成果の発信を行い、広報活動の充実を図る。</p>	<p>①学校や地域等との連携・協働をいっそう推進し、教育活動の充実を図る。</p> <p>②広報活動の内容としての地域等との連携・協働の方法等を検討し、これらのいっそうの推進を図る。</p>	<p>①②目標達成のための新たな地域等の連携・協働の方法を模索し、連携可能な事業等を拡充し、教育活動の充実を図る。</p>	<p>①社会の一員としての資質や意識の向上を視野に入れた生き方を学ぶ機会の拡充ができたか。</p> <p>②新たな地域等の連携・協働の方法を模索し、実践できたか。</p>					
5	学校管理 学校運営	<p>①すべての人が学び活躍して、成長を続けられる学校づくりを推進する。</p> <p>②将来にわたって、社会的な役割と責任を果たすことができる持続可能な学校づくりに取り組む。</p>	<p>①学校運営のさまざまな機会をとらえて、未来の神奈川の教育を主体的に担うことができる職員を育成することをめざす。</p> <p>②持続可能な学校に必要な、職員の「心身両面の健康維持」やワーカーライフバランス実現のために、学校運営の方法や働き方の改善・改革を推進する。</p>	<p>①校内人権研修や不祥事防止研修などを通じ、知識習得や討論を行うことで個々の職員の資質や意識の向上を図る。</p> <p>②各職員が業務の精選・見直しを行い、超過勤務を是正する意識を強く持つ。また、意識的に積極的に定時退庁を心がけ、週1回以上は実践する。</p>	<p>①個々の職員の資質向上につながる研修を設定することができたか。</p> <p>②職員各自が業務の精選や見直しを通して意識改革を行い、働き方の改革や超過勤務を是正することができたか。</p> <p>定時退庁を積極的に実践できたか。</p>					